

山口県立

総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

特集

てんかん支援拠点病院

てんかん支援拠点病院としての当院の役割



2023.3 Vol.51

① 武藤院長挨拶 ②③④ 特集 てんかん支援拠点病院

⑤ 看護部通信 安心して受けることができる放射線療法看護 ⑥ 地域医療連携ニュース てんかん診療支援コーディネーター

⑦ インフォメーション 関節外科開設 / アレルギー相談室開設 / 看護部業務改善委員会 活動報告 / 広報番組放送予定 / 編集後記
外来診察担当医表(別紙)

跳ねるうさぎ年

院長 武藤 正彦



2023年はみずのと卯年である。卯は跳ねるといわれ、縁起の良い格言である。豊作と豊漁を願う福岡宮崎宮の「玉せせり」など新型コロナウイルス感染症のため控えられていた神事や、薩摩富士の景観を楽しみながらの「いぶすき菜の花マラソン」の実走などの復活を見聞きするにつけ、withコロナの共生時代が動き出したなど実感させられる。

他方、社会経済情勢は厳しい現実を見せつけてくる。国境なき渡り鳥からはインフルエンザA型に属する高病原性鳥インフルエンザのウイルスの検出が相次ぐ。ウイルスの遺伝子解析の結果からも、海外からのウイルス搬入の証拠が示されている。国内の養鶏場でも感染が確認され、家畜伝染病予防法に基づいて、鶏の生命が容赦なく奪われていく。渡り鳥に日本への入国禁止を求める法的手段はないのである。大量の鶏の殺処分の結果、菓子類やたまごご飯としてヒトが食する鶏卵の値段も影響を受け、物価高騰につながる。ウクライナ戦争の波及はエネル

ギー資源の供給制限に伴う光熱費の高騰という形で当院の病院経営上の収支にも大きく影を落とす。人間は逆境に立たされると勇気と知恵が湧いてくる特質を持っている生物種である。当院も厳しい病院経営の舵取りが日々続くが、どこかに突破できる道があるはずだ、との信念でいろいろ工夫をしながらこの一年に賭けてみたい。

今年は、相模湾を震源とする関東大震災が1923年(大正12年)9月1日に発生してちょうど百年が経つ。46億年の歴史を刻んできた地球のご機嫌を窺いながら、当院としてもBCP(事業継続計画)を手許において、自然の巨大災害に対する食糧・医薬品類・エネルギー等の備えを今一度点検しておく必要がある。院内職員向けの新年の挨拶で申し上げたように、「先進的がん診療の推進」を先頭に、令和の改新に挑む年にしたい。幕末、イギリスに渡航した長州ファイブの精神を引き継ぎ、山口から世界へ一緒に羽ばたいて行こう。

■てんかん支援拠点病院

山口県立総合医療センターは、2022年7月に山口県よりてんかんの診断と治療を専門的に行う「てんかん支援拠点病院」の指定を受けました。

てんかん支援拠点病院の役割は、医師、行政機関、てんかん患者や家族を含む、「てんかん治療医療連携協議会」を設置することや、コーディネーターによる患者、家族への専門的な相談支援、他の医療機関や自治体、関係機関との連携、患者、家族、地域住民や医師への教育・啓発活動を行っています。

■世界の流れ

2015年5月の世界保健機関(WHO)総会では、てんかんに関する特別決議が採択され、医療、教育、福祉、労働、地域社会、司法、マスコミなど社会のあらゆる面で、てんかんに関する理解の向上と啓発活動を重視し、てんかんのある人の社会への受け入れ促進を世界に発しました。

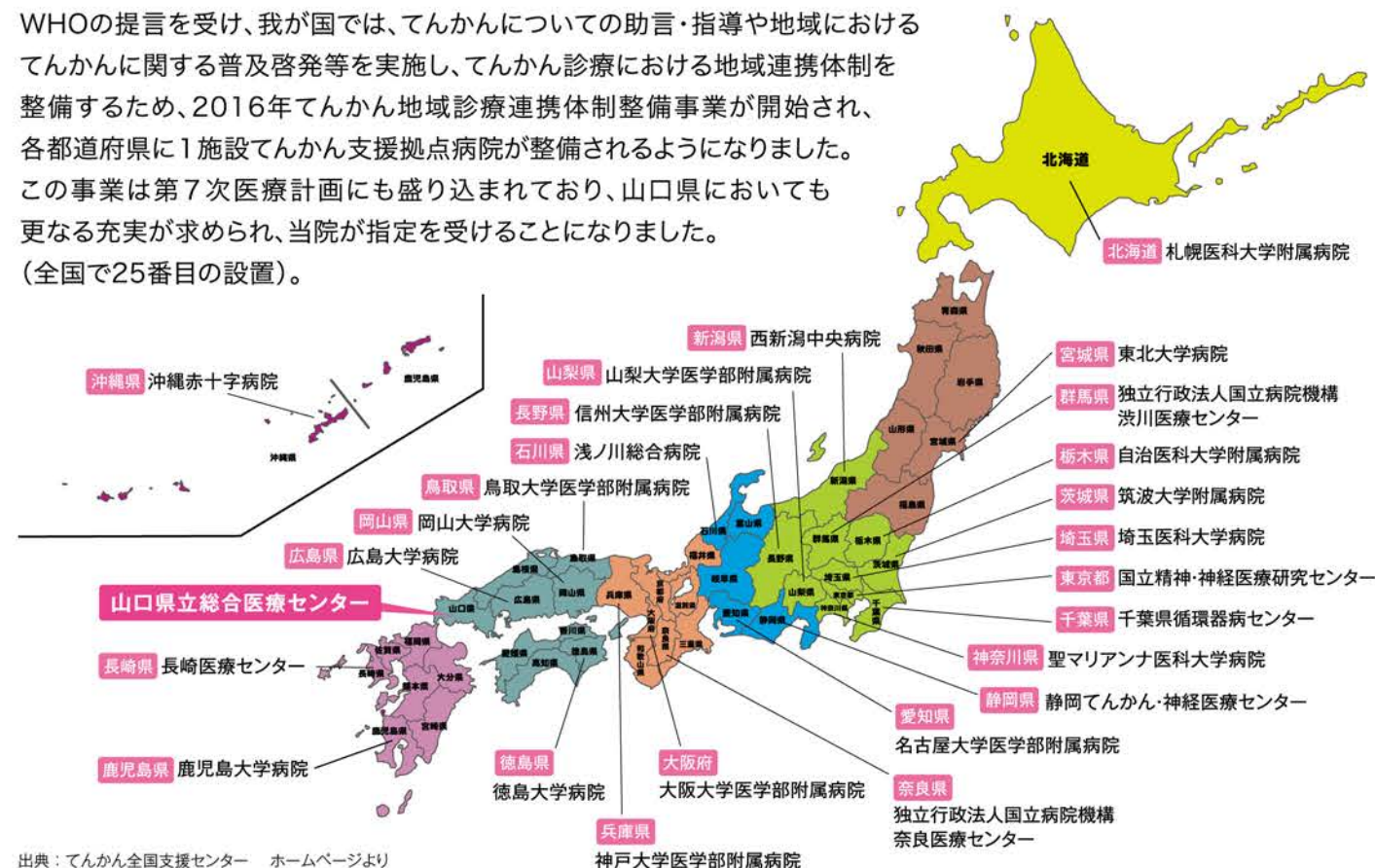
世界てんかんの日(毎年2月の第2月曜日)

国際てんかん協会(International Bureau for Epilepsy: IBE)と国際抗てんかん連盟(International League Against Epilepsy: ILAE)は、1997(平成9)年に世界保健機関(WHO)とともに、グローバルキャンペーン「てんかんに日陰から日向へ」を開始しました。IBEとILAEは、2015(平成27)年から2月の第2月曜日を「世界てんかんの日(International Epilepsy Day: IED)」に決めました(ヨーロッパ等では聖ヴァレンティンをてんかんのある人々を庇護した聖人として称えており、バレンタインデー直前の月曜日が選ばれました)。2016(平成28)年より日本てんかん協会と日本てんかん学会の共催で東京で記念イベントを開催し、各種の啓発活動を行っています。

出典：厚生労働省ホームページより 「てんかんについての啓発活動」

■経緯

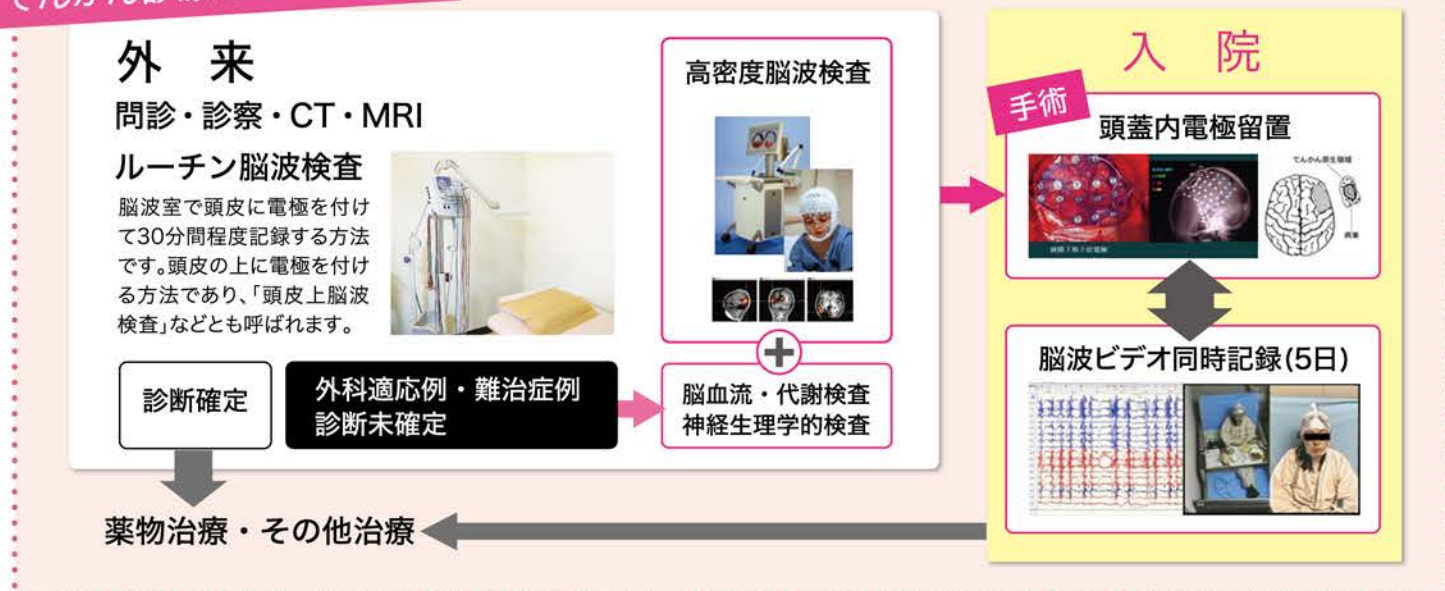
WHOの提言を受け、我が国では、てんかんについての助言・指導や地域におけるてんかんに関する普及啓発等を実施し、てんかん診療における地域連携体制を整備するため、2016年てんかん地域診療連携体制整備事業が開始され、各都道府県に1施設てんかん支援拠点病院が整備されるようになりました。この事業は第7次医療計画にも盛り込まれており、山口県においても更なる充実が求められ、当院が指定を受けることになりました。(全国で25番目の設置)。



■てんかんセンターでの診療内容

てんかんは人口の約1%を占める身近な病気ですが、適切に治療されていない、または難治な患者さんが多くおられます。当センターでは、てんかんに関する診断から治療まで全てに対応します。特に難治例に対しては、高密度脳波計やビデオ脳波同時記録装置等による、精密かつ最新の検査及び外科治療を提供します。具体的診療内容は以下の通りです。

てんかん診療フローチャート

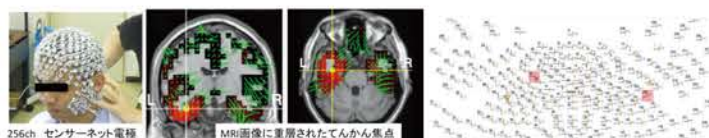


てんかん専門医による外来診療

問診、CT/MRI検査、脳波検査、血液検査、PET検査、薬物治療

高密度脳波検査(256ch脳波)

256チャンネルの頭皮上脳波データを解析、MRIと重層することで、てんかん焦点を明らかにすることができます



脳波専門医による脳波判読

神経救急における脳波モニタリング(けいれん重積等)

脳死判定(脳死移植を前提とした)

てんかんのセカンドオピニオン

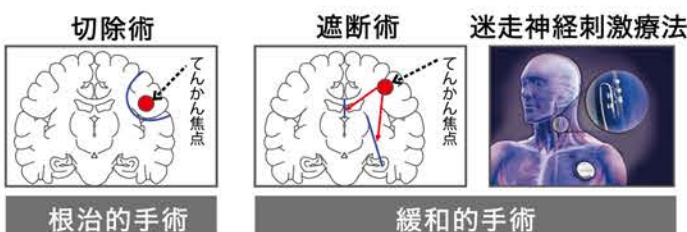
また、治療以外にも社会・教育現場等での支援や啓発、運転免許などの法的問題、公的支援制度、てんかん難病の支援、てんかん女性の妊娠出産に関する相談、高齢者のてんかんなどにも対応しております。

長期継続ビデオ脳波同時記録(入院)

診断が難しい症例や発作が難治な症例には入院していただき、数日間持続で脳波とビデオを同時に撮像し、発作時の脳波及び発作症状を解析することで、診断治療に役立てています。

てんかん手術

てんかん手術は発作を消失させる根治的手術と発作の軽減を図る緩和的手術があります。(頭蓋内電極留置、焦点切除、脳梁離断、迷走神経刺激装置埋込術等)



■てんかん支援拠点病院としての業務

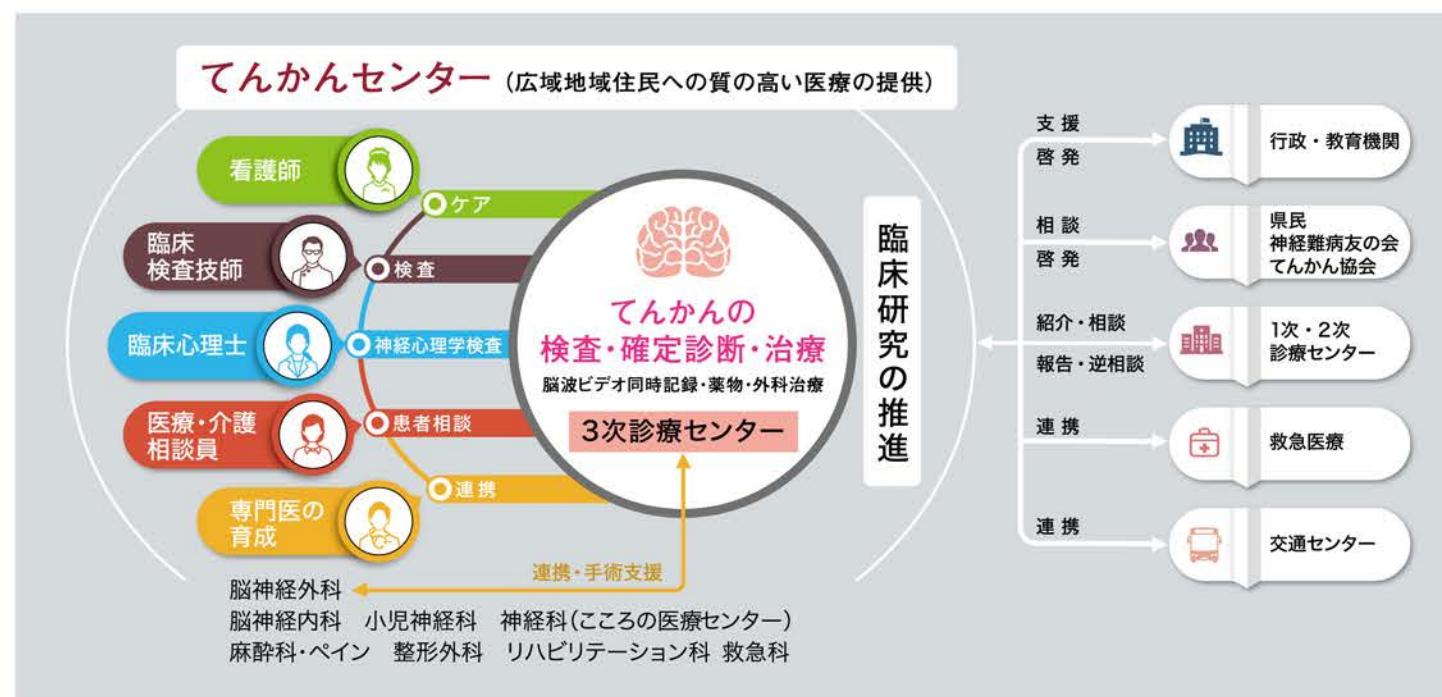
当センターでは以下の業務を行っててんかんの地域医療に貢献します。

- てんかん患者ならびにその家族への専門的な相談支援及び治療
- 関係機関(精神保健福祉センター、管内の医療機関、保健所、市町村、福祉事務所、公共職業安定所、教育機関等)との連携・調整
- 医療従事者、関係機関職員、教育機関、てんかん患者及びその家族、地域住民等への啓発活動
- てんかん診療に関わるデータの集計・整理
- てんかん診療支援コーディネーターによる相談支援

■連携体制の強化

当センターのみでは全てのてんかん患者さんに対応することはできませんので、病院内関連科、大学病院及び県内のてんかん診療を行っている医療機関との連携体制を強化し、てんかんの地域医療及び先進的研究の発展に寄与します。

地域医療連携ネットワークの構築



第46回

日本てんかん外科学会の開催



日本てんかん外科学会
会長 藤井 正美
山口県立総合医療センター 脳神経外科・外科系主任部長
この度、第46回日本てんかん外科学会の会長を仰せつかり、2023年1月26日、27日の両日山口市(KDDI維新ホール)にて開催しました。全国から多くの医師及び医療従事者が集い、熱い議論が交わされ、学会は成功裡に終了しました。





安心して受けることができる 放射線療法看護

がん放射線療法看護認定看護師 鮎川 香苗

放射線治療は、手術・薬物療法と合わせて「がん治療の3本柱」と言われています。根治照射をはじめ、疼痛緩和などの姑息照射まで幅広い治療を行っており、地域がん診療連携拠点病院である当院でも、多くのがん患者さんが放射線治療を受けられています。放射線治療は高精度であるが故に専門性が高く、放射線治療と聞くと「怖い」「よくわからない」といったイメージを持たれている方も少なくないように感じています。そのため、患者さんの一番近くにいる看護師に求められる役割は大きく、専門的な立場から患者さんに寄り添った看護を行いたいと思い、がん放射線療法看護認定看護師を志しました。

放射線治療を受けられる患者さんが抱えておられる苦痛は様々あり、不安や恐怖などの精神的苦痛や、有害事象による身体的苦痛などが挙げられます。そのため、患者さん一人ひとりとしっかりと向き合い、安心して放射線治療を受けていただけるよう努めています。放射線治療は毎日数分で終わってしまうため、治療室で患者さんと関わる時間は限ら

れていますが、「毎日お会いできること」が放射線治療室の強みであり、毎日の「会話」を大切にしています。また、放射線治療による有害事象は治療プランから予測することができるとも言われており、予防的な介入を行うことで、放射線治療による身体的苦痛の緩和にも努めていきたいと思っています。患者さんやご家族が安心して放射線治療を受けることができるよう、これからも自己研鑽してまいります。



地域医療連携 NEWS

てんかん診療支援 コーディネーターについて

当院は2022年7月に山口県より、「てんかん支援拠点病院」の指定を受け、医療相談窓口に4名の「てんかん診療支援コーディネーター（以下、コーディネーターと称す）」を配置し、てんかん相談及び関連業務を開始しました。業務にあたる4名のコーディネーターは、全国てんかんセンター協議会（JEPICA）の研修会を受講した、社会福祉士3名と看護師1名で構成され、研鑽に励みつつ必要な支援について多職種で取り組んでいます。コーディネーターは、てんかん診療が円滑に行われるよう、医療者側と患者側の間の調整業務を担い、次のような業務を行っています。

- ① てんかん患者及びその家族への専門的な相談支援及び助言
- ② 管内の連携医療機関等への助言・指導
- ③ 関係機関（精神保健福祉センター、管内の医療機関、保健所、市町村、福祉事務所、公共職業安定所等）との連携・調整
- ④ 医療従事者、関係機関職員、てんかん患者及びその家族等に対する研修の実施
- ⑤ てんかん患者及びその家族、地域住民等への普及啓発

てんかんによって、生活や人生の多方面において影響が生じる場合があります。症状や治療に伴う負担だけでなく、医療費の負担や生活費などの暮らしに関すること、就学・就職に関すること、自動車運転に関すること、その他日常生活で様々な不安が生じることが懸念されます。また、てんかんに携わる関係機関の皆様も、同様に不安を感じることがあると思われます。そのような患者さんやご家族の方、関係者の方に向けて、医療相談窓口ではご相談を受け付けており、皆さんと一緒に考えてまいります。

相談をご希望の方は、1階の医療相談窓口までお越しいただくか、下記の連絡先までご連絡をお願いいたします。なお、相談内容によっては関係者と協議し、後日のご回答とさせていただきますのでご了承ください。

連絡先

医療相談窓口 てんかん診療支援コーディネーター

TEL: 0835-22-5145 月曜から金曜（祝日を除く）8時30分～17時15分
FAX: 0835-22-5745 E-Mail: tenkansoudan@ymghp.jp





○関節外科の開設について (令和4年12月)

整形外科の人工関節置換術においては、精度が高く最小侵襲の手術を行っており、特に膝関節においては手術支援ロボットを2台導入し、手術件数も増えています。

これを反映して、整形外科内の人工関節センターに専門性を高めるために設置しました。

○アレルギー相談室の開設について (令和4年12月)

当院小児科は、山口県内におけるアレルギー疾患の中核施設で、特に食物負荷試験については、200件以上の実績を有しています。開設にあたり、沐浴層や処置スペース等を整備し、これまでの外来では対応困難であったスキンケアの指導を実施できるようになりました。

また、食物アレルギーに関する栄養指導については、専用の部屋でプライバシーに配慮した指導を実践しております。

○看護部業務改善委員会 活動報告 ▶▶▶

令和5年2月8日に看護部業務改善委員会において、各部署における1年間の活動を報告しました。

この報告会は毎年開催しており、各部署の課題を明らかにし、業務の効率化及び質の向上につなげています。



優秀賞 外来 RRSを起動して「つなぐ」

準優秀賞 周産期3階 新型コロナウイルス感染症対応
～分娩入院時における産婦への対応についての取り組み～

看護部長賞 7階北病棟 休日勤務の全検廃止に向けて

やまぐち医療最前線 (tys テレビ山口)

放送日時	放送内容	出演
3月4日(土) 18:55～19:00	頭頸部がんの集学的治療	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 竹本 剛 医師
3月8日(水) 16:00頃～		

編集後記

先

日山口県てんかん支援拠点病院として開催した、当院主催のセミナーに参加しました。てんかんは誰もがかかる可能性のある身近な病気で、乳幼児期から高齢期までどの年齢層でも発病することを知りました。今回の特集で当院の役割・体制を知っていただき、てんかんで悩んでいる方の一助になれば幸いです。(総務課Y.N)

【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する



山口県立総合医療センター
Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210
URL <https://www.ymgph.jp/>